

科目名	人文科学Ⅲ Human ScienceⅢ			担当教員	與田 純		
学年	4年	学期	通年	科目番号	09106	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	履修条件	選択		
学習目標	<p>目標区分 (A-1) : 倫理観—倫理観を育て社会貢献の意義を理解・表現できる。  (A-2) : 広い視野—国際的観点から多面的な意見を述べられる。  (A-3) : 技術者倫理—技術の発展の功罪, 技術者の責任を述べられる。</p> <p>前期はドイツ近現代史、特にナチスの支配とユダヤ人迫害について、後期は日本近現代史、特に太平洋戦争について学習する。両者は第二次大戦における同盟国であり、ともに敗戦国として、今日に至るまで深刻な戦後処理問題を抱えている。両者が経験した近現代史の類似点および相違点について深く学んでもらいたい。</p>						
進め方	基本的に講義形式で進めるが、「ノートを取って、暗記する」だけの受動的な学習方法では試験に対応することはできない。学生諸君には、授業への積極的な参加を要求する。また、史料や絵画など多様な文献を読み解くことを通じて思考力を養い、音楽・映像教材などを用いて授業の理解を深めよう。						
学習内容	学習項目 (時間数)			合格判定水準			
	1. ユダヤ人の歴史と第一次世界大戦(15) (1) ユダヤ人とは? (2) 古代ヘブライ人の歴史 (3) 中世ヨーロッパにおけるユダヤ人差別 (4) 近代ヨーロッパにおけるユダヤ人差別 (5) 第一次世界大戦			「ユダヤ人」とはどのような人々であるのか、また彼らの歴史の概要を理解できている。第一次世界大戦の原因、特色、意義を説明できる。			
	2. ナチス・ドイツとホロコースト(15) (1) ナチスの台頭 (2) ナチス支配下のドイツ (3) 第二次世界大戦 (4) ホロコースト (5) ニュルンベルク裁判と戦後処理			ナチスが台頭した理由とその支配の特色を理解できている。第二次世界大戦へと至るまでとその戦局の概要を理解できている。史上最大のジェノサイドが可能となった要因、ドイツの戦後処理の特色を説明できる。			
	前期末試験						
	3. 国際的孤立から太平洋戦争へ(15) (1) 第一次世界大戦と日本 (2) ベルサイユ・ワシントン体制 (3) 世界恐慌 (4) 満州事変 (5) 日中戦争 (6) 南進政策			ベルサイユ・ワシントン体制の意義とその弱点を理解できている。世界恐慌から第二次世界大戦へと至る激動の時代状況の中での日本の役割と問題点を説明できる。			
	4. 太平洋戦争と戦後処理(15) (1) 太平洋戦争の開始 (2) 戦局の展開 (3) 沖縄戦 (4) 原爆投下と敗戦 (5) 東京裁判と戦後処理			太平洋戦争の経過の基本的な事項を理解できている。同戦争に対する多様な評価と今日的な課題を掘んでいる。			
	後期末試験 試験返却(1)						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の内訳は、発表点と演習課題等を10%程度、定期試験結果を90%程度とする。</li> <li>・学習項目ごとの全体評価への重みは、1.～4.のそれぞれについて25%, 25%, 25%, 25%とする。</li> </ul>						
関連科目	歴史Ⅰ(1年) → 歴史Ⅱ(2年) → 人文科学Ⅲ(4年)						
教材	教科書: 北村正義編『新編 世界の歴史』(学術図書出版) 日本史関連の詳細な資料はコピーで配布する。						
備考	単位追認試験は次年度の9月(前期範囲)と1月(後期範囲)に実施する。						